

# 豊かな人間性

## 研究課題

### 豊かな人間性を育むカリキュラム・マネジメントと校長の在り方

#### 1 趣旨

グローバル化が進んでいる現在、様々な価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きていくことや、科学技術の発展や社会・経済の変化の中で、人々の幸福や持続可能な社会の実現を図ることが一層重要となる。このような時代の中で、子どもたちには、自らを律しつつ、自己を確立し、他人を思いやる心や感動する心をもつ豊かな人間性を備えた人として育ち、自分らしく主体的に生きていける教育を推進していくことが求められている。

学校には、豊かな人間性と未来を切り拓く力を育む教育活動を展開していくことが求められている。その基盤となるのが、人権教育であり、道徳教育である。

人権教育については、子どもたちに人間と生命の価値を自覚し尊重することや、人と調和して共に生きること、人の痛みや思いに共感することなどを育むことを教育活動全般の中で進めていくことが必要である。

また、道徳教育については、自立した一人の人間として、人生を他者と共により良く生きる人格を形成することを目指すものであり、子どもたちが夢や希望をもって未来を拓き、人間としてより良く生きようとする力が育成されるよう指導の一層の充実を図っていかなければならない。

本分科会では、校長のリーダーシップの下、道徳教育や人権教育など、心の教育に関わる教育実践を推進するとともに、家庭や地域等と連携・協働した取組を実現し、人間性豊かな日本人を育成するためのカリキュラム・マネジメントの具体的方策と成果を明らかにする。

#### 2 研究発表とグループ協議

##### 研究発表1

###### 〔視点①〕

よりよい社会を創る人権教育の推進

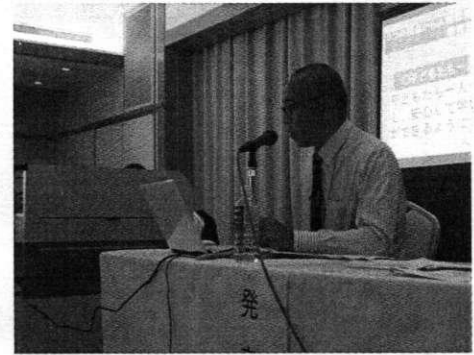
###### 〔発表題〕

人権教育の推進を通して豊かな人間性を育むための校長の役割

～校長会が支える「島根がめざす人権教育」を  
基盤とした学校教育の推進～  
島根県 川本町立川本小学校 高尾 康弘

###### 〔発表要旨〕

どのような時代であろうとも、自立した個人が個性、能力を生かし、他者を尊重し、多様な人々との協働を通じて新たな価値を創造していくことができる柔軟な社会を実現させな



ければならない。また、基本的人権について単に理解するだけでなく、人権を尊重する社会づくりに貢献できる資質・態度を身に付けさせることが必要である。

本研究では、「人権教育指導資料」をもとに、「進路保障」を学校教育の柱として人権・同和教育を推進してきたことを踏まえ、「島根が進める人権教育」についての校長の一層の力量を高めるための研修の在り方や人権教育における校長の役割を明らかにするものである。

##### (1) 「島根がめざす人権教育」の再認識のための研修

○ 自校の教育活動を人権教育の三つの視点から振り返る演習などを通じた研修の実施

##### (2) 学習指導要領とカリキュラム・マネジメントの理解のための研修

○ 教育活動全体を通して、育てたい資質・能力を横断的に考える研修の実施

##### (3) 人権感覚を磨く研修

○ フィールドワークと講義形式で地域の同和対策事業の概要を理解する研修の実施

#### 〔グループ協議の概要〕

(1) 「教育活動全体を通して推進する人権教育」を推進するためには、経営ビジョンの明確化が重要である。その際、「子どもたち一人一人の学びの保障」「人権が尊重される環境づくり」「人権に関する知的理解と人権感覚」の視点から教育活動を「意味付け・価値付け」するなどして、教育活動推進の方向性を共有化することの重要性を再認識できた。

(2) 日常的に実践している人権教育にかかわる様々な活動を整理し、体系化していくことが必要である。また、教職員研修を実施することで意識の向上を図ることが可能となる。その際、重点目標の実現、教育活動実施のストーリーづくりなどにも留意したい。

(3) 家庭や地域との連携については、学校の経営方針をグランドデザインなどの一般に分かりやすい方法で周知を図るなどの方策を進めている。「道徳科」の地域公開日開催も有効な方法である。

(4) 人権教育の推進について、ねらいとする豊かな人間性の育成が図られているか、その検証が十分にできていない現状がある。また、家庭・地域との連携についても、それ自体に対する偏見も見られるなど理解が十分とはいえない。児童の実態やその時代の状況をよく見極め、取組の方法を更に改善していく必要がある。

## 研究発表 2

## 〔視点②〕

豊かな心を育む道德教育の推進

## 〔発表題〕

豊かな人間性を育む教育課程の編成・実施と校長の指導性

北海道 北見市立錦水小学校 小野寺 哲浩

## 〔発表要旨〕

道德の教科化は、多様な価値観や考え方に直面した時に誠実にそれらの価値に向き合い、コミュニケーションや対人関係の変化にも適応しながら未来社会を生き抜く力を育成することをねらいとしている。そのため、校長は子どもの知性と豊かな創造性を育むためのカリキュラム編成上の課題を明確にし、よりよい教育活動の展開に向けて評価・改善を促すことが必要である。

本研究は、豊かな心を育む道德教育を推進するためのカリキュラム・マネジメントにおける校長の指導性について具体的な方策と成果を究明したものであり、次の三つの側面から、校長の果たすべき役割・指導性・職責を明らかにした。

- (1) 教科等横断的視点による教育内容の組織的な配列
  - 道徳科における「教科の横断的視点」や「主体的・対話的で深い学び」を全ての教育活動との関連性の中で検討する。
- (2) 教育の質の向上を目指すPDCAサイクルの確立
  - カリキュラム・マネジメントの必要性や意義を全職員に理解させ、道德教育に組織的・計画的に取り組む。
- (3) 人的・物的資源など、外部資源の活用
  - 学校内外の人的・物的資源を活用し、子どもの主体性や創造性、協同性が発揮できる地域ぐるみの取組を目指す。

## 〔グループ協議の概要〕

- (1) 学校が進める道德教育について、様々な形で発信するものの、家庭・地域への浸透や双方向性をいかに図っていくかが課題となる。地域と保護者、教師の思いをより近付ける役割こそ、校長が担うべきである。
- (2) 子どもの道德性を高めるためには、担任教師が見せる姿勢（道德性）が大きな影響力をもっている。そのため、教師の道德性を高める研修は重要であり、校長のリーダーシップの発揮が期待されるであろう。



- (3) 「特別の教科 道德」を推進するためには、道德教育推進教師を中心に具体的な方策を企画・実施させるとともに、子どもの成長の様子を発信していく必要もあるだろう。保護者や地域から意見を得る機会を設定するなどして、学校への理解や協力を得ることが重要な手立てであると考えられる。

## 3 まとめ

二つの発表を受け「豊かな人間性を育むカリキュラム・マネジメントと校長の在り方」について、校長のリーダーシップの下、道德教育や人権教育など心の教育に関わる教育実践を推進することについて、熱心な協議が行われた。主なものを成果・課題としてまとめ、以下に記す。

## 〔成果〕

- (1) 学校経営ビジョンの明確化
  - 目指す子どもの育成に向け、教育の本質に迫る分析を基に、取組の目的や筋道を設定するなど、ゴールまでの「見える化」に取り組むことが学校のビジョンを明確にし、学校内外の共通理解を深めることにつながる。
- (2) 教育活動の質の向上と学習効果の最大化
  - 校長は、教職員が目標に向かうための組織の構築を進めるとともに、子どもの実態に応じた具体的な方策を共有することが重要である。また、定期的な評価・改善、進行管理と進捗状況の把握がねらいや内容の改善につながる。
- (3) 家庭・地域との連携及び異校種間の連携
  - 校長は、学校内外の人的・物的な資源を活用できるような体制づくりに努め、家庭・地域等との連携・協働体制の下で取組を推進することや幼・小・中の12年間を見通した学びの系統性と子ども像の共有を図ることが重要である。

## 〔課題〕

- (1) 社会に開かれた教育課程の中核として、各学校が目指す資質・能力を重点目標として具体化し、見える化による工夫を行うなど、教職員、家庭、地域の意識や取組のベクトルを揃えていく必要がある。
- (2) 各学校の特色を生かした教育の質の向上のために、教育課程に沿った教育実践の進捗状況を複数回PDCAの改善サイクルで評価・分析することが重要になる。
- (3) 子どもたちが多様な人々とのつながりを保ちながら学べるように、子育ての核となって地域社会の声に耳を傾け、経営ビジョンを分かりやすく伝えたり、取組状況を具体的に発信したりすることが必要である。

